

## ◆滋賀県内で校内マラソン激減 授業時間減やけがの懸念など絡み

かつて冬の定番行事だった校内マラソン大会を催す滋賀県内の学校が近年、激減している。学習指導要領の改定で授業時間が減り、時間確保のために行事を減らしている影響が大きい。急病やけがの懸念、安全上の問題などの事情も絡む。子どもの体力低下が懸念される中、「体力、精神力を養う機会なのに」と、疑問の声も上がる。

甲賀市の甲賀中はマラソンの代わりに続けてきた駅伝を昨年から中止した。授業時間数の確保が主な理由だ。同中は「授業確保が大命題となっており、体育的な行事を切らざるを得ない。苦渋の選択だった」。以前は体育行事が目白押しだったが、今では体育祭と球技大会だけになった。

県教委の調査によると、本年度マラソン大会を催すのは中学では10校、高校は4校のみ。小学校でも117校と半数にとどまる。県教委スポーツ健康課は「授業として行ったり、マラソン大会以外の取り組みで補う所もあるが、実感として減っている」という。

学習指導要領改定（小中は2002年度、高校は03年度）や学校週5日制（02年度）の影響で授業時数が減り、その煽りを受けた形だ。

しかし、理由はそれだけではなさそうだ。ある小学校関係者は「大会当日だけ、ずる休みをする児童が増えたり、校外を走らせることで交通事故や突然死を懸念し、止める所もある」という。

そうした中、県立守山高（守山市）は、伝統行事として続けている。男子8キロ、女子4・5キロを走る。川上昌道教頭（49）は「苦しいが走りきることで体力や精神力を培える。心身が健康でないとしっかりした人生は歩めない。これからも続けていく」と意義を話す。

滋賀大教育学部の辻延浩准教授（44）は、マラソン大会は、事故の懸念もあり、準備時間を含めて多くの時間を費やさねばならないとして、「これだけの労力をかけてまで実施すべきなのか学校側も意義を見だしにくい。子どもや保護者に科学的な根拠で、マラソンの効果を説明するのも困難だ。そのため中止と判断するところがあるのでは。しかし、中高生は持久力などが最も発達する。この時期に負荷をかけないと将来の体力形成に響く」と話す。

子どもの体力低下を食い止めるため、中教審は次の学習指導要領に小中学校の体育の授業時間増を打ち出している。